

第1回「船旅活性化協議会」

平成27年11月5日（木）

15:00～17:00

中央合同庁舎2号館15階海事局会議室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 委員紹介
4. 議 題
 - (1) 国内旅客船・外航クルーズ等の現状について
 - (2) 船旅魅力の現状・課題について
 - (3) これまでの船旅関連検討会について
 - (4) 今後の事業化に向けての取組について
5. 閉 会

船旅活性化協議会 委員

(有識者)

矢ヶ崎 紀子 東洋大学国際地域学部国際観光学科准教授

(国内旅客船・フェリー事業者)

◇国内フェリー・離島航路

仁田 一郎 瀬戸内海汽船(株)代表取締役社長

◇長距離フェリー

佐々木正美 新日本海フェリー(株)常務取締役

◇水上バス

守谷慎一郎 東京都観光汽船(株)代表取締役

原 喜 信 日本旅客船協会理事長

(外航客船事業者)

木島 榮子 (株)カーニバル・ジャパン顧問

小野 芳清 日本外航客船協会理事長

(旅行関係者)

三上 勇 クラブツーリズム(株)執行役員・営業本部国内旅行部長

吉金 嘉洋 (株)日本旅行取締役兼常務執行役員・営業企画本部副本部長

(代理出席:才木 剛 営業企画本部クルーズ営業推進チームマネージャー)

平野 利晃 (株)JTB 国内旅行企画常務取締役

興津 泰則 日本旅行業協会国内・訪日旅行推進部長

(離島関係者)

加藤 庸二 (株)ワイドビジョン代表(写真家)

(国土交通省)

長崎 敏志 観光庁観光資源課長

(代理出席:大岡 秀哉 ニューツーリズム推進官)

水谷 誠 港湾局産業港湾課長

磯野 正義 海事局外航課長

(代理出席:矢島 優一 国際海上輸送企画官)

新垣 慶太 海事局内航課長

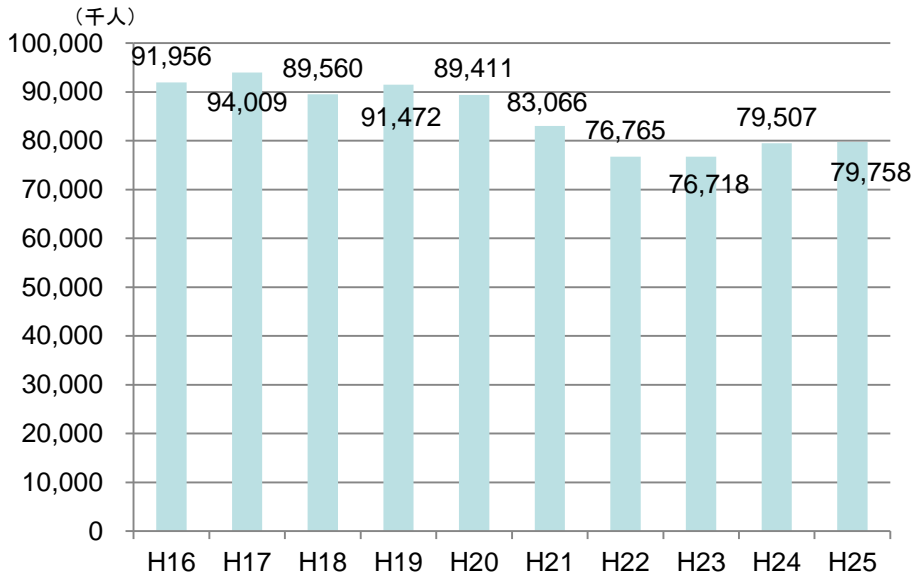
第1回船旅活性化協議会

国土交通省 海事局

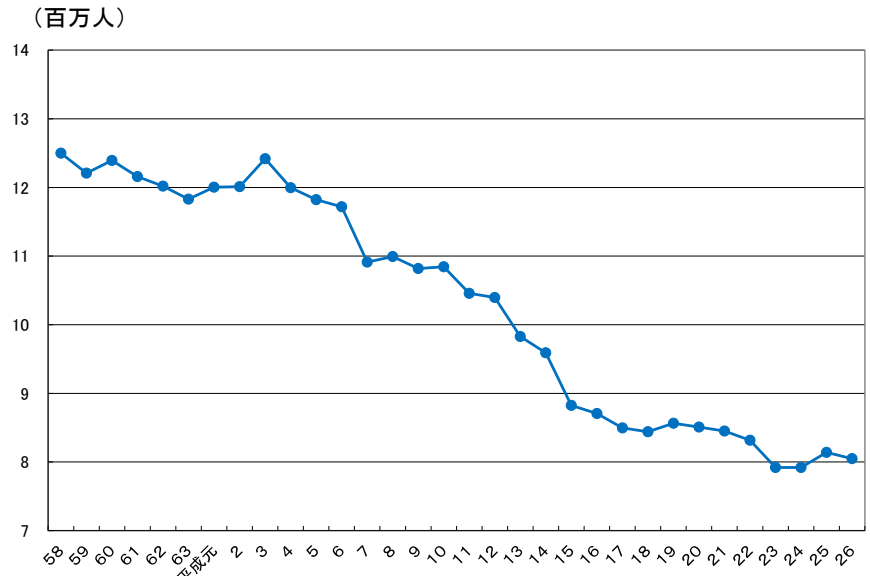
平成27年11月

1. 国内旅客船・外航クルーズ等の現状について

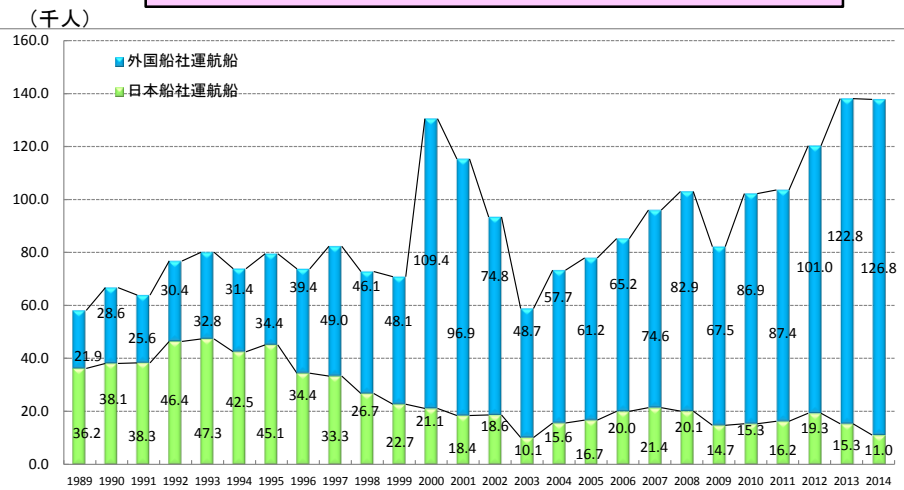
一般旅客定期航路の輸送実績推移



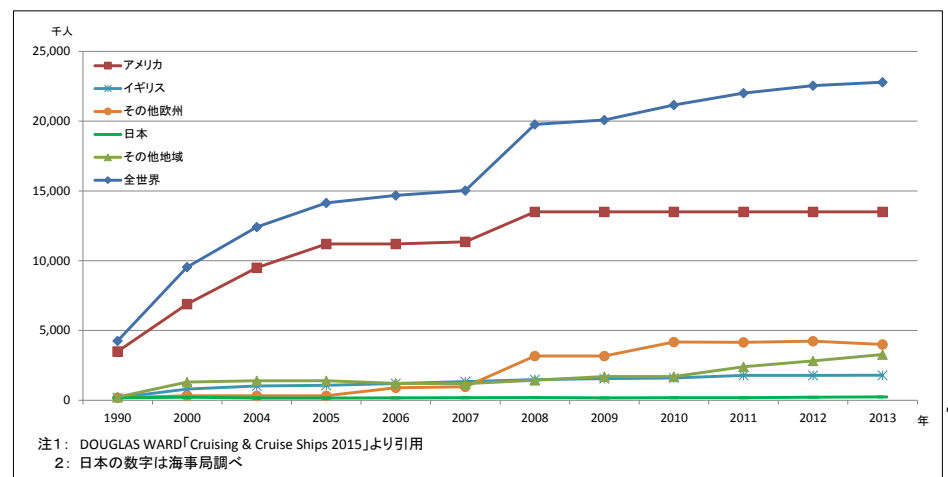
補助航路の輸送実績推移



外航クルーズ船の日本人乗客数の推移



世界のクルーズ人口の推移



2. 船旅魅力の現状・課題について①

<国内旅客船・フェリー>

島ガールツアー (東海汽船(株))

船から見た世界遺産富士山 (駿河湾フェリー: 清水～土肥航路)

- 島旅をアピールする取組として、メディアや企業とタイアップし、様々なツアー企画で伊豆七島で遊ぶ女性たちを応援。

- 世界遺産に登録された富士山を船上から眺望できる。観光地である伊豆半島へのツアーに組み込むことで、効果的な誘客。



好きっぷ2000 (南海フェリー(株): 徳島～和歌山航路)

宇高航路サンセットクルーズ (四国急行フェリー(株): 宇野～高松航路)

- 徳島港→和歌山港(南海フェリー)+和歌山港駅→南海電鉄各駅が2,000円で行ける切符を販売。フェリーと鉄道相互の利用客増加を図る。

- 夏場の夕方に出航する便で宇野～高松間を往復し(相手港での下船はしない)、ビール等を飲みながら瀬戸内海の多島美を楽しんでもらう。浴衣着用の大人の女性は運賃半額。



2. 船旅魅力の現状・課題について②

ドック回航を利用した瀬戸内お散歩クルーズ (有)野島海運:三田尻港～木曾造船)

せとうちサイクルーズPASS (一社)中国旅客船協会:42社、41航路)

- 定期航路船のドック回航を利用し、日中の瀬戸内海を周遊

- 瀬戸内海を訪れるサイクリング目的等の観光客の増加を活かし、サイクリング観光客向けに乗船料を割引く取組。



せとうちCamperクルーズ (一社)中国旅客船協会:6社、7区間)

イルカウォッチング (株)シークルーズ:本渡～松島航路)

- 旅客船事業者や関係自治体など多様な主体が連携して新たな観光コースを開拓・PR。キャンピングカー利用者に対し運賃割引により需要喚起。

- 野生のバンドウイルカが見学できる。旅行雑誌等への掲載により、旅行客が増加。香港のテレビ番組での紹介されるなど、外国人旅行客も増加している。



2. 船旅魅力の現状・課題について③

< 離島航路 >

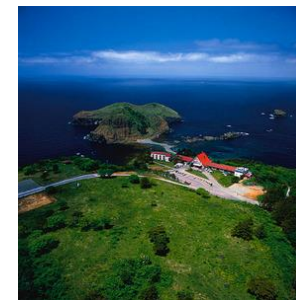
娘さん応援モニターツアー (北海道離島ツーリズム推進会議)

- 観光による地域活性化や離島航路の利用促進を図るため、行政、自治体、観光関係団体、交通事業者(フェリー、バス)、宿泊事業者等が連携して企画。利尻・礼文島を巡るツアーを実施。



レンタカーパック (佐渡汽船株:新潟～両津)

- 自分の車で来なくてもレンタカーで佐渡島各地の絶景を自由気ままに旅行。



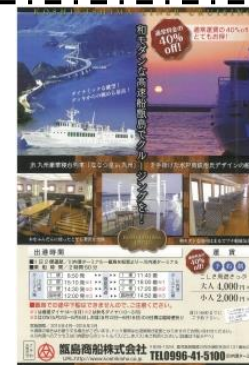
五島地域への観光商品の造成 (九州商船株:長崎～下五島・上五島)

- 「ふるさと割(「地域住民生活等緊急支援のための交付金事業」)・自治体の取組の「しまとく通過」を組み込んで、格安感を出している。五島への観光客は殆ど活用。東京、大阪、福岡等でも同社ネットワークを活用し営業活動も積極的に行い、また、離島の港から中心地まで旅客利用者の送迎サービスも行っている。



こしき周遊きっぷ (甕島商船株:串木野・川内～甕島)

- 「高速船甕島」による運航そのものを新たな観光ツールと位置づけ、定期運航便を活用した「高速船周遊割引」を設定。川内港から乗船する旅客であって、あらかじめ途中寄港地において下船せず、川内港までの乗船を希望する旅客については、往復利用額を40.83%割引。(運賃4,000円)



2. 船旅魅力の現状・課題について④

トカラ列島島めぐりマラソン大会 (十島村:鹿児島～十島～宝島)

慶良間諸島の魅力発信 (座間味村:泊～座間味航路)

- フェリーとしまを利用して、十島村の全ての有人島(7島)を走る大会。スタートの口之島からゴールの宝島まで南北130kmあり、移動距離においては日本一。大会当日の夜は島民との交流会でトカラの料理が振る舞われるなど、島の魅力を食の面からもアピールしている。一度に7島を巡ることができる良い機会でもあり、県外からの参加者も多い。(イベント特別便のため鹿児島～十島～宝島便で運航する。)

- 島の生活を体験する修学旅行の取り込み。また近年は、ミシュラングリーンガイドジャポンに掲載され、外国人利用客も増加。



2. 船旅魅力の現状・課題について⑤

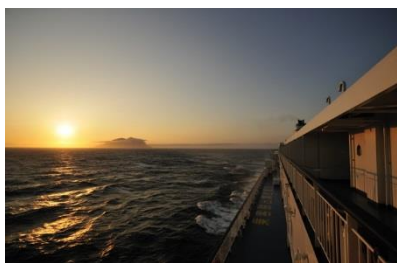
<長距離フェリー>

ドライブパック
(新日本海フェリー(株))

昼の瀬戸内感動クルーズ
(株)フェリーさんふらわあ:神戸~大分航路)

- 乗り慣れたマイカーでのドライブ観光を希望する旅行者を対象に、割安なパック商品で誘客することで、船上から見える景色など、観光地までの船旅を堪能してもらう。

- 通常の航海(夜便)では見ることのできない、刻一刻と表情を変える美しい瀬戸内海の絶景を美味しい食事、そして様々な船内イベントとともに楽しむ。



バスふね関西・宮崎パック
(株)フェリーさんふらわあ:大分~神戸)

大坂の社会見学
(阪九フェリー(株):新門司港~泉大津港~新門司港)

- 大分~宮崎間の高速バス「パンフィックライナー」の乗車券と、関西~大分間のフェリー乗船券をセットにした商品。

- 九州からの観光誘致の為、大阪府がツアー参加者1人当たり旅行費用の半額を補助で旅行業者がツアーを造成。

バスふね関西宮崎パック! セットプランだともっともお得!! MIYAZAKI

福岡エリア着 8,000円
宮崎エリア着 9,000円

阪九フェリー新造船で行く3泊4日 大阪の社会見学

19,800円

8日~15日 12日
16日~21日 1日
7日

2. 船旅魅力の現状・課題について⑥

<水上バス・遊覧船>

漫画家(松本零士)による船のデザイン (東京都観光汽船株:水上バス)

- 欧州からの取材で取り上げられ、海外でも注目。宇宙船をイメージした船から隅田川沿いの景観を楽しめるだけでなく、夕方から夜にかけては船からの淡い光が隅田川をホテルのように照らすなど、船そのものが魅力的。



沖島振興 (沖島町離島振興推進協議会、琵琶湖汽船株)

- 島内に立ち並ぶ家なみの情景や湖における漁業体験など観光地として注目を集めている。離島振興法の離島振興地域の指定を受けたのを契機に沖島の風景を楽しめる沖島周遊のクルーズを就航。鮎ずし作り体験クルーズも人気。



屋形船でのビアガーデンクルーズ (江戸前汽船株)

- ライトアップされた東京スカイツリーを船上から見上げながら、情緒ある夜の隅田川を回遊。飲物を片手に、船上での“非日常の雰囲気”を楽しむことができる。



とんぼりリバークルーズ (一本松海運株:道頓堀遊覧船)

- 大阪の観光スポット道頓堀を、ガイド付きで20分で周遊するクルーズ。短時間で各種割引パスなどの使用もでき、観光客に人気。



2. 船旅魅力の現状・課題について⑦

城の堀を活用した城下町遊覧

(公益財団法人松江市観光振興公社:ぐるっと松江堀川めぐり)

- 国宝「松江城」の堀りを約50分掛けて周遊する遊覧船を運航。武家屋敷や塩見縄手の老松などを舟に揺られながら悠然と眺めることができ、船頭のユーモア溢れるガイドや多くの橋をくぐる等もあって、舟遊びのおもしろさを一層かき立てている。



世界遺産を巡る軍艦島周遊(上陸)クルーズ

(長崎港～軍艦島(遊覧船))

- 「軍艦島(端島・無人島)」の上陸周遊ツアーを各運航会社独自で企画。船内において軍艦島の歴史的説明を行い、出航後は長崎港内にある三菱重工業(株)長崎造船所の構成資産及び長崎市内の観光スポットを案内している。



九十九島遊覧船

(させばパール・シー(株):九十九島観光遊覧航路)

- 夏から秋までのサンセットクルーズや9月～10月の1日限定で弁当・飲み物を付けた観月会クルーズ、元旦に日の出を見る初日の出クルーズ(ぜんざい付き)等、九十九島の自然を余すことなく堪能できるクルーズにより誘客。

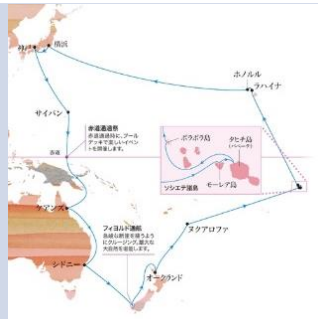


2. 船旅魅力の現状・課題について⑧

<クルーズ船>

郵船クルーズ	商船三井客船	日本クルーズ客船
<p style="text-align: center;">飛鳥Ⅱ</p>  <p>就航: 2006年3月(建造1990年7月) 総トン数: 50,142トン 乗客数: 872名、客室数: 436室 分類: ラグジュアリー</p>	<p style="text-align: center;">にっぽん丸</p>  <p>就航: 1990年9月 総トン数: 22,472トン 乗客数: 524名、客室数: 202室 分類: ラグジュアリー</p>	<p style="text-align: center;">ぱしふいっくびいなす</p>  <p>就航: 1998年4月 総トン数: 26,594トン 乗客数: 620名、客室数: 238室 分類: ラグジュアリー</p>

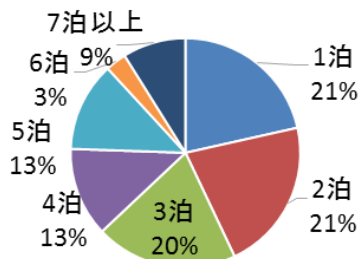
実施しているクルーズの具体例

国内クルーズ	海外クルーズ
<p>短期クルーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 館山花火クルーズ(年1回) 1泊2日 5万円~20万円程度 ■ 津軽・金沢クルーズ(年2回) 3泊4日 11万円~61万円程度 <p>長期クルーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本一周クルーズ(年1回) 11泊12日: 54万円~226万円程度  <p style="text-align: center;">日本一周クルーズの寄港地 ※商船三井客船HPより</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ サイパンクルーズ(年1回) 10泊11日 44万円~200万円 ■ タヒチ・ハワイクルーズ(年1回) 46泊47日: 123万円~625万円 ■ 南太平洋グランドクルーズ(年1回) 49泊50日: 181万円~1,228万円 ■ 世界一周クルーズ(年1回) 103泊104日 442万円~2,634万円  <p style="text-align: center;">南太平洋グランドクルーズの寄港地 ※郵船クルーズHPより</p>

2. 船旅魅力の現状・課題について⑨

- 日本籍のクルーズ船3隻による国内クルーズは、2014年には135ツアーが組まれている。
- そのうち、3泊4日以下のクルーズが85ツアーあり、全体の約6割を占めている。

<国内クルーズの泊数別の内訳(2014年)>



泊数	ツアー数	
	回数	割合
1泊	29	21%
2泊	29	21%
3泊	27	20%
4泊	17	13%
5泊	17	13%
6泊	4	3%
7泊以上	12	9%
計	135	100%

3泊以下の国内短期クルーズ
→85回(62%)

- ※ 2014年1月～12月の実績。
- ※ 各社パンフレットやHPをもとに集計。
- ※ 1回のクルーズで複数の乗船プランが設定されている場合がある。

<国内短期クルーズの例(2015年)>

	1泊2日	2泊3日	3泊4日
飛鳥II  飛鳥II	「夏の横浜ワンナイトクルーズ」 期 間:2015/8/19～8/20 ルート:横浜発着 価 格:5.2万円～  船上イメージ	「夏の鳥羽クルーズ」 期 間:2015/7/20～7/22 ルート:横浜～鳥羽～横浜 価 格:10.4万円～  鳥羽港	「小樽発 函館・横浜クルーズ」 期 間:2015/9/7～9/10 ルート:小樽～函館～横浜 価 格:15.6万円～  函館
にっぽん丸  にっぽん丸	「瀬戸内海ゆったりワンナイトクルーズ」 期 間:2015/6/10～6/11 ルート:神戸発着 価 格:4.7万円～  船上から見る瀬戸大橋	「下関／隠岐／金沢クルーズ」 期 間:2015/6/22～6/24 ルート:下関～隠岐～金沢 価 格:7.9万円～  国賀海岸	「飛んでクルーズ九州～上五島・軍艦島周遊・天草～」 期 間:2015/6/19～6/22 ルート:博多～上五島～軍艦島周遊～天草～博多 価 格:12.7万円～  軍艦島
ぱしふいっくびいなす  ぱしふいっくびいなす	「初夏の青森・小樽ワンナイトクルーズ」 期 間:2015/6/15～6/16 ルート:青森～小樽 価 格:3.6万円～  小樽運河	「世界自然遺産 屋久島クルーズ」 期 間:2015/7/18～7/20 ルート:広島～屋久島～広島 価 格:9.0万円～  千尋の滝	「秋の小豆島・南紀クルーズ」 期 間:2015/9/15～9/18 ルート:横浜～小豆島～新宮～横浜 価 格:12.2万円～  二十四の瞳映画村(小豆島)

2. 船旅魅力の現状・課題について⑩

ロイヤルカリビアン・インターナショナル(米国)

クァンタム・オブ・ザ・シーズ



就航:2014年11月
 総トン数:167,800トン
 乗客数:4,180名、客室数:2,090室
 分類:カジュアル

プリンセス・クルーズ(米国)

ダイヤモンド・プリンセス



就航:2004年2月
 総トン数:115,875トン
 乗客数:2,670名、客室数:1,337室
 分類:プレミアム

キュナード・ライン(英国)

クイーン・エリザベス



就航:2010年10月
 総トン数:90,900トン
 乗客数:2,068名、客室数:1,029室
 分類:ラグジュアリー

実施しているクルーズの具体例

日本発着クルーズ

- 気楽にクルーズ 神戸～釜山～小樽(年2回)
4泊5日 7万円～15万円程度
- 美ら海の沖縄、石垣島、奄美と台湾(年6回)
8泊9日 12万円～70万円程度
- 世界遺産の地・済州島と台湾周遊(年4回)
9泊10日 14万円～80万円程度
- ゴールデンウィーク日本周遊と釜山(年1回)
10泊11日 24万円～89万円程度



日本周遊と釜山クルーズ
(2014年パンフレットより)

海外クルーズ

- タスマニア(年1回)
7泊8日 10万円～45万円
- ニューカレドニアとバヌアツ(年3回)
11泊12日 16万円～32万円程度
- 大西洋横断と北ヨーロッパ(年1回)
20泊21日 26万円～93万円
- 世界一周クルーズ(年1回)
118泊120日 176万円～5,600万円



タスマニア・クルーズの寄港地
(カーニバル・ジャパンHPより)

○ 「船旅の魅力再生のための懇談会」中間提言－船旅の魅力再生に向けて－（抄） （平成18年6月、船旅の魅力再生のための懇談会）

3 より一層の飛躍を目指すための方策 ～多様な主体との連携等の新たな試み～

（問題意識2）少数モデルに対するマーケティング等を多くの航路に反映する手法の有効性
＜提言＞

●社会実験等で成功例のモデルを作り、それを普及していく手法も有効ではないか。
（先行事例）9月初旬にリベラの日本海航路において、各種の連携の実験（例えば、地元ボランティアガイド、地元の産業、旅行会社と組んだモニターツアーの実施）と、それに対する顧客の満足度調査を実施

3. これまでの船旅関連検討会について(提言等)②

○ 海洋観光の振興に向けての最終とりまとめ (抄)

(平成26年6月、海洋観光の振興に関する検討会)

詳細は別紙参照

5. 海洋観光の課題と今後の取組の方向性等について

本検討会では、様々な角度から課題や今後の取組の方向性についての意見が出されたが、これまでの議論を以下の7項目に分類し、課題及び今後の取組の方向性、また海洋観光の関係者が取り組むべき具体的施策例についてそれぞれとりまとめた。

<7項目>

- ①海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ ②魅力の情報発信手法 ③産業創出・振興 ④離島振興
- ⑤我が国海洋の周知啓発 ⑥海洋観光に係る人材の育成 ⑦関係者の連携

①海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

・「みなとオアシス」などの活用による海と親しむ機会の提供 等、以下13項目

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

・優良海浜における、先駆的事業の実施(例えば春～秋まで海水浴ができるようにするなど) 等、以下5項目

②魅力の情報発信手法

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

・海の日関連イベント等の活用による海そのものの魅力発信 等、以下5項目

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

・地域の自治体による情報発信(お得な観光情報の発信など) 等、以下3項目

③産業創出・振興

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

・湾内クルーズやディナークルーズの活性化支援(再掲) 等、以下12項目

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

・短期クルーズ、定点・定期型クルーズ、カジュアルクルーズが成立するビジネス環境の整備(再掲) 等、以下4項目¹³

(次ページに続く)

3. これまでの船旅関連検討会について(提言等)③

④離島振興

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策
・地域の離島振興計画等、海洋を観光の場とする取組への支援 等、以下5項目

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

・優れた経済性や環境負荷の低減、省人化等が可能となる離島航路船の開発 等、以下2項目

⑤我が国海洋の周知啓発

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

・親子での、または学校での海洋に関する教育の充実 等、以下9項目

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

・体験型の観光商品の開発 等、以下1項目

⑥海洋観光に係る人材の育成

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

・学生に、海洋が持つ多面的価値を啓発し、海事に関する知識を普及させるための指導員の育成 等、以下2項目

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

・海洋に関する観光情報を、ツアーコーディネーターに研修するなど、専門人材の育成を推進

⑦関係者の連携

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

・船社と港湾管理者等の連携や、農林水産業と地域・離島振興策との連携 等、以下7項目

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

・船社と港湾管理者等の連携や、農林水産業と地域・離島振興策との連携(再掲) 等、以下4項目)

3. これまでの船旅関連検討会について(提言等)④

○ 海洋観光・海を身近に懇談会 (平成26年9月～)

【出席者から出された主な取組例】

- ・ジャングルクルーズIN葉山(株)葉山マリーナー)
- ・メディアや企業とタイアップし、伊豆七島で遊ぶ女性たちを応援する「島ガールツアー」(東海汽船株)
- ・島の特産物を取り入れた「島島弁当」(東海汽船株)
- ・東京湾での納涼船のイベント(浴衣のイベントも実施)(東海汽船株)
- ・「自然体験活動ツアー」や民泊事業(NPO法人アイランドツーリズム協会)
- ・修学旅行生を対象としたテーブルマナー教室や東京湾の夜景の話(東海汽船株)
- ・修学旅行生を対象とした灯台や船のライト等の海の灯りの説明や星の説明、コースターやランチョンマップ、足ふきマットなどを作るイベント(瀬戸内海汽船株)
- ・伊豆大島の災害があった後、国や東京都等から協力をもらい、伊豆大島を復興させるために、全国の旅行会社にPR活動(東海汽船株)
- ・日の出棧橋からお台場まで、「Jicoo(ジクー)」という船が運航しており、船内がバーで、ライブ等をやっている。
- ・沖縄の八重山を中心に、星空を見に行くツアーや真の闇を体験して、蛍を見に行くなどの自然界を身近に感じるプログラムが増えている。
- ・伊豆大島では、裏砂漠という砂漠があり、夜にそこで寝ころび星を見ようというツアーがある。
- ・島でもネイチャーガイドが育成されており、漁船を使った夜光虫、光るキノコの夜行茸などを見るツアーが増えている。
- ・新潟の奥只見湖で就航している遊覧船では、操舵室で子供船長体験等をやっている。
- ・呉軍港めぐり、夜の宮島で船を使った鳥居くぐり、チャーター船を利用した日帰りクルーズ(瀬戸内海汽船株)
- ・急流や渦巻き等の能島潮流体験と村上水軍ゆかりの史跡探訪クルーズ(瀬戸内海汽船株)
- ・島の造船所へ行って進水式等を見て回るクルーズ(瀬戸内海汽船株)
- ・白石島の「白石踊」、歴史建造物跡が残る「大久野島」等を巡るクルーズ(瀬戸内海汽船株)
- ・広島港と江田島間の短距離航路で、ナイトクルージングと称して、格安で体験できるツアーを実施(瀬戸内海汽船株)
- ・クルーズ船では、文化的・歴史的なことや生物に関するインストラクターが同乗し、様々な島に渡って案内する。
- ・お客様に乗ってもらうために考えた、漫画家(松本零士)による船のデザイン
- ・飛鳥Ⅱによるワンナイトクルーズ、3世代をターゲットとしたサマークルーズ(横浜から神津島へ行くクルーズ)
- ・羽田空港や日本橋の船着場といった、従来では運航が厳しい場所へ行くことができる「リムジンボート」。英国ウィリアム王子が来日した際に乗船。(東京観光汽船株)
- ・船の中にドッグランスペースを設けて、ペットと一緒にクルーズできる取組(東京観光汽船株)
- ・「着物・浴衣レンタル付き屋形船遊び」、「工場夜景ジャングルクルーズ」、「ディナークルーズ」
- ・東京のパナマ運河と呼ばれる扇橋閘門等を見て回る「江戸水路探索と下町そぞろ歩き」(株)JTBPブリッシング)
- ・ガントリークレーンを用いて、スケルトンコンテナの積み下ろしを見る北欧のツアー

○ 観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015（抄）

（平成27年6月、観光立国推進閣僚会議）

3. 地方創生に資する観光地域づくり、国内観光の振興

(7) 日本の魅力を活かした船旅の活性化

○旅客船は、3000人規模の大型クルーズ船や日韓定期航路など日本を訪れる外国人旅行者のための訪日手段、また、国内の交通手段・観光資源として、重要な役割を果たしている。しかしながら、島国日本の豊富な海洋観光資源に鑑みれば、手軽な船旅を期待する日本人に訴求する旅行商品の造成など、まだまだ市場開拓の余地は大きい。オリンピック・パラリンピックが控える東京や、多島美・「しまなみサイクリング」が海外でも人気の瀬戸内、歴史的・文化的遺産にあふれる長崎等、日本各地を海路で結んで海からの景色や各地の魅力を楽しませる船旅を活性化させ、日本を訪れる外国人旅行者の期待に応えるとともに、日本人にとっても国内クルーズ・船旅が身近になるような環境整備を進める必要がある。

- ・国土交通省・観光庁、旅客船事業者、観光関係者等が集まって「**船旅活性化協議会**」(仮称)を立ち上げ、カジュアルクラスなどのクルーズサービス、国内フェリー、離島航路、遊覧船など様々な船旅の選択肢をわかりやすく提示するとともに、キャンペーンを通じて利用促進を図ることにより、船旅が身近になる取組を進める。【新規】
- ・手軽に・短期間で国内クルーズを楽しめるよう、定期航路を就航する船舶が定期検査のためにドック回航する機会を活用して、「**オフルート・クルーズ**」(仮称)として商品化を図る。【新規】
- ・官民が協力して、瀬戸内海の魅力を国内外に発信するとともに、フェリー等を活用して瀬戸内海を周遊する旅行商品の造成を進め、その定着を図る。【新規】
- ・東京ベイエリアにおける屋形船や水上バスを活性化させるため、共通の航路マップの作成、初めて利用する日本人や外国人にも手軽に楽しめる企画商品の開発、海外の旅行業者の乗船体験等を実施する。【改善・強化】
- ・2015年度中に、日本とASEAN諸国の運輸・観光分野の行政機関、民間事業者等が参加して、「**アジア・クルーズ・シンポジウム**」(仮称)を開催し、日本とASEAN諸国をつなぐ新たなクルーズルートに関する情報発信・プロモーションを行う。【改善・強化】

- 基本政策部会とりまとめ～海洋立国日本の前進に向けた今後の海事行政の目指す方向2015～（抄）
（平成27年7月、交通政策審議会海事分科会基本政策部会）

2. 5 観光立国の推進

(2) 必要な取組

1) 手軽に船旅(「ふなたび」)を楽しめるサービスの創出

- (i) 国内フェリー、離島航路、遊覧船等の活用
- (ii) 地域の魅力を活かした旅行商品の新たな開発
- (iii) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた東京の水上交通バスの利用促進
- (iv) 船旅が身近になる取組の一層の推進

上述の日本の海の魅力を体験できる様々な船旅について、旅客船事業者、観光関係者等が集まって「**船旅活性化協議会**」(仮称)を立ち上げ、商品・サービスの充実を加速し、情報発信力を高め、キャンペーン等を通じて利用促進を図ることにより、船旅が身近になる取組を進める必要がある。その際には、昨今の旅客船での事故を踏まえ、船舶の安全確保にきちんと取り組んでいることについても、情報発信をして、利用者の不安を払拭していくことも重要である。

(v) マリンレジャーの振興

(vi) 日ASEAN連携によるクルーズ商品の開発

2) 外航クルーズや日韓定期航路の振興

- (i) 外航クルーズの振興
- (ii) 日韓定期航路の活性化

「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」(平成27年6月 観光立国推進閣僚会議)及び「基本政策部会とりまとめ～海洋立国日本の前進に向けた今後の海事行政の目指す方向2015～」(平成27年7月 交通政策審議会海事分科会基本政策部会)において、船旅が身近になる取組を進めるため、「船旅活性化協議会」を立ち上げることとされた。

過去の提言等

- ・H18.6 「船旅の魅力再生のための懇談会」中間提言－船旅の魅力再生に向けて－(船旅の魅力再生のための懇談会)
- ・H26.6 海洋観光の振興に向けての最終とりまとめ(海洋観光の振興に関する検討会)
- ・H26.9～ 海洋観光・海を身近に懇談会



これまでの提言等を踏まえ、船旅活性化協議会では、より魅力的な船旅の商品化、さらに、利用者が手軽に利用しやすくなるような情報発信により、船旅が身近になる取組を進める。

- 海洋観光の振興に向けての最終とりまとめ（抄）
（平成26年6月、海洋観光の振興に関する検討会）＜7項目＞

- ①海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ ②魅力の情報発信手法
③産業創出・振興 ④離島振興 ⑤我が国海洋の周知啓発 ⑥海洋観光に係る人材の育成 ⑦関係者の連携

- ①海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ
- ・優良海浜における、先駆的事業の実施（例えば春～秋まで海水浴ができるようにするなど）
 - ・年代別に、観光の目的を設定、商品企画や顧客アプローチの設定・「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、行政と民間事業者が連携した沿岸域の魅力発信や海の路を活用したモニターツアーの実施
 - ・短期クルーズ、定点・定期型クルーズ、カジュアルクルーズが成立するビジネス環境の整備 ー魅力的な商品開発
 - ・土日で観光できるような、手軽な観光ルートの提案
 - ・海洋再生可能エネルギー実証フィールド（選定）自治体との連携、潮流発電施設、港湾や造船所等の見学実施、マリリゾートでのリゾートウエディングの企画など、これまで着目されていない観光資源を活用した新たな商品メニューの企画

- ②魅力の情報発信手法
- ・地域の自治体による情報発信（お得な観光情報の発信など）
 - ・映画制作活動の誘致、修学旅行の旅行先の企画など
 - ・海女小屋など、家族で気軽に行ける施設のPR強化
 - ・船の安全対策や、津波対策（ソフト対策、ハード対策）について、利用者の安心につながる情報発信

- ④離島振興
- ・優れた経済性や環境負荷の低減、省人化等が可能となる離島航路船の開発
 - ・民宿宿泊体験等の観光メニューの拡充。サイクリング大会等との連携など、地域資源の活用
 - ・遠隔離島へのクルーズ船の企画

具体的企画の検証

●船旅の事業化

- 旅客船・フェリー、離島航路
- ・ウォーキング、サイクリング、島の体験企画
 - ・サイクルーズPASS、せとうちCamperクルーズ、ドック回航時クルーズ

- 長距離フェリー
- ・ゆったりクルーズ、船内イベント

- 水上バス・遊覧船
- ・お散歩クルーズ

- クルーズ
- ・カジュアルなクルーズ

●情報発信

- ・地元自治体、旅客船関係団体、旅行業関係団体からの情報発信
- ・観光エリアの無料WiFi化

●フェリー・旅客船の有効活用

- ・観光以外に災害時の活用
- ・自動車で旅する人を船に誘導

WGで事業化を進める企画案

- 登山者、サイクリング、RV利用者等をターゲットとした商品

- 島の観光資源、〇〇体験のパック商品
- ・味覚ツアー 等

- 手軽・短時間乗船商品（景観、船内イベント充実商品）
- ・サンセットツアー
- ・ドック回航時活用ツアー 等

- 国内完結型クルーズ
- ・フェリー・高速道路連携バス
- ・日本一周の船旅
- ・カジュアルなクルーズ 等

- ▲インターネット活用
- ▲新聞・雑誌等の活用

7. 今後の事業化に向けての取組について②

協議会で決定された事業化に向けた事項

- 国内旅客船・フェリー
◇◇◇◇
- 離島航路
△△△△
- 長距離フェリー
※※※※
- 水上バス・遊覧船
▽▽▽▽
- クルーズ船
□□□□



事業化実現WG設置

(メンバー)

- ・協議会メンバー
- ・関係事項に積極的な事業者、関係協会および関係自治体
- ・船旅活性化委員会(日本旅客船協会に設置済み)

(進め方)

- ・成功事例等のヒアリング
- ・既存商品の検証
- ・実施可能な地域の選定
- ・関係者間の調整



アウトプットイメージ(目標)

(~H28.3)

- 年度内に既存企画の充実
- 数航路において事業化



アウトプットイメージ(目標)

(28.4~)

- 全国に進捗状況の周知
- 事業化予定航路の確認
- 新たな事業化対象企画の追加

H27.11
第1回協議会



WG
2.3回程度開催



H28.3
第2回協議会



平成28年度

海洋観光の振興に向けての最終とりまとめ

平成26年6月

海洋観光の振興に関する検討会

1. はじめに

海洋観光の振興に関する検討会（以下「検討会」という。）においては、海洋観光の有する魅力や意義をはじめとして、海洋観光について、今後、振興・発展させていくために行うことが望まれる取組や方向性について、様々な角度から議論を行ってきた。

この度、現在の海洋観光が抱える課題や取組の方向性等に係るこれまでの検討や議論を基に本紙の通りとりまとめた。

2. 海洋観光の定義

海洋を活用した観光は、海水浴、海上・海中遊覧、クルーズ、離島観光等、多岐に亘るが、これらの観光活動が複合的に実施されることが多いことを勘案し、本検討会では、海洋観光を「海洋に関わる観光資源及び自然状況並びに海上交通を利用、活用する観光」と定義し、海洋観光を網羅的に推進していくことを目指すこととした。

3. 海洋観光の魅力

海洋観光独自の魅力については、様々な角度から整理することが重要であり、代表的なものとして、以下の項目について整理を行った。

- ・ 景観
 - － 広大な我が国海洋が有するリアス式海岸や白砂青松（はくしゃせいしょう）など、多様で豊かな自然、我が国の美しい沿岸域の地形やその地形を活かした街並、海から見える景観、港の風景など、海洋の景観そのものが魅力となり得る。
- ・ 船への乗船体験
 - － クルーズ船、フェリー・旅客船、遊覧船等、様々な形態が存在するが、いずれも船に乗ることで日常とは異なる様々な体験が出来る。
- ・ 離島の自然、歴史、文化、伝統
 - － 離島には、美しい自然のほか、離島独自の歴史、文化、伝統が残されており、これらに触れることは海洋観光の魅力となり得る。

- ・ 教育としての場
 - －海が有する豊かな自然や文化などを活用した体験学習や、カヤックなどのマリンスポーツなど、海洋観光の体験を通じた教育の場を創出できる。
- ・ 非日常の空間としての海
 - －観光は日常生活圏とは異なる空間や体験を楽しむものであるから、海が非日常になってしまっていることを逆手にとると、海洋観光によって非日常体験を提供することができる。

4. 海洋観光の施策意義・施策体系等

海洋観光は、様々な内容が複数組み合わせられて行われることが多いことから、海洋観光の振興にあたっては、関係する施策等が連携して行われることが重要である。このような連携を進めていくに際しては、その目的や意義を関係者が共有し、共通の意識を持って取り組んでいく必要があることから、本検討会では、海洋観光の意義や施策を体系的に次のように整理した。

海洋観光は、まず、「経済の活性化」と「海洋の管理」という2つの大きな側面を有すると考えることができる。さらに、「経済の活性化」については、「地域振興」及び「国・地域のブランド力・競争力の強化」という2つの柱に体系化でき、また、「海洋の管理」については、「我が国海洋の適切な管理」、「我が国海洋の周知・啓発」という2つの柱に体系化できると考えられる。

それぞれの柱における具体的な施策やその効果については以下のものが挙げられる。

- ・「地域振興」
 - 観光入込客増加、交流人口増大、雇用の創出
 - 海洋観光産業の人材育成 等
- ・「国・地域のブランド力・競争力の強化」
 - クルーズ船発着・寄港による地域の魅力発信
 - 魅力ある観光地づくり、船舶の技術力強化 等
- ・「我が国海洋の適切な管理」
 - 我が国海洋の適切な管理への観光の活用
 - 観光の振興に資する沿岸域の適切な管理
 - 海洋観光と連携した大規模災害時の船舶の活用
 - 航行の安全 等
- ・「我が国海洋の周知・啓発」
 - 海洋観光の体験を通じた海洋管理の必要性の認知
 - 関係者の連携促進、機運の醸成

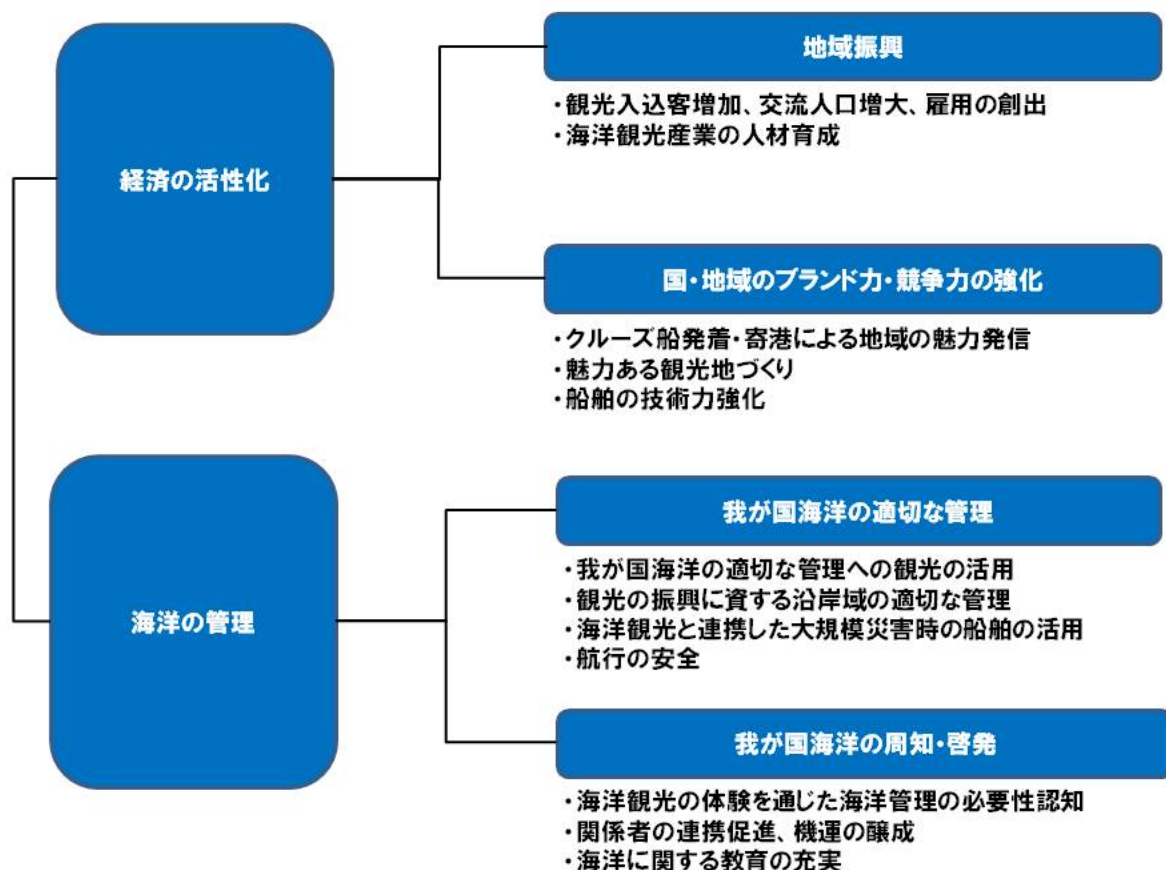


図1 海洋観光施策体系図

なお、我が国における観光消費に占める海洋観光の割合は一定規模あり、地域振興にも寄与するものである。また、クルーズ船の乗客数については、我が国では横ばいで推移しているが、世界的には増加傾向にあることから、今後、クルーズ振興の施策が適切に行われることにより、乗客数がさらに増加するポテンシャルを有しているとも言え、地域における交流人口の増加による地域振興に大きく寄与することが期待される。

従って、海洋観光の上記の意義・施策体系を踏まえて、その振興・発展に向けて取り組んでいくことが効果的であると考えられる。

また、海洋観光の振興・発展に向けた取組を進めるにあたっては、各地域の海洋観光資源を、守り、育てると共に、相互に高め合っていくことが重要であると考えられる。

5. 海洋観光の課題と今後の取組の方向性等について

本検討会では、様々な角度から課題や今後の取組の方向性についての意見が出されたが、これまでの議論を以下の7項目に分類し、課題及び今後の取組の方向性、また海洋観光の関係者が取り組むべき具体的施策例についてそれぞれとりまとめた。

<7項目>

- ① 海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ
- ② 魅力の情報発信手法
- ③ 産業創出・振興
- ④ 離島振興
- ⑤ 我が国海洋の周知啓発
- ⑥ 海洋観光に係る人材の育成
- ⑦ 関係者の連携

① 海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ

(課題)

海は夏だけというイメージが強く、船旅がより身近なものとして定着しておらず、そもそも海が人々にとって身近なものではなくなっているとの指摘がある。また、クルーズ船を実際に利用しているのは富裕層が多いという実態や、全ての顧客をターゲットとして一律的なアプローチを行うことには限界があることを考慮する必要がある。海側からのアプローチだけでなく、陸側での観光資源の磨き上げが必要であり、従来着目されていない観光資源の活用を図る必要があると考えられる。

(取組の方向性)

- ・ 海に行く、触れる、海と親しむためのきっかけ・動機の掘り起こし、そのための環境・インフラ整備
- ・ 利用者目線での魅力の磨き上げ
 - －海に接する陸域の観光資源も含めた地域全体での魅力
 - －場所によっては、年代別、目的別などターゲットを絞る必要がある
- ・ 夏季のみならず、春夏秋冬の年間を通じて海洋観光が可能となる魅力の発掘
- ・ 船に乗ること、船旅の楽しさ・魅力の向上、怖さの払拭
- ・ 大型船等の寄港促進、低価格帯や短期間のクルーズ等、より身近に楽しむ

るようなクルーズメニュー・商品の開発

- ・ 港湾、造船所、海洋再生可能エネルギー施設など沿岸域の構築物の見学・視察などを目的とした海洋産業観光の振興

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が行っている施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

- ・ 「みなとオアシス」などの活用による海と親しむ機会の提供
- ・ 観光に資する緑地、護岸、砂浜の保全や景観の保全
- ・ スロープや手すりの整備等による、高齢者等にも配慮した海岸・砂浜へのアクセス性の向上
- ・ アンケート等の実施による、ターゲット自身からの観光需要の情報入手を民間事業者等が行うための支援
- ・ 海、陸の観光資源を併記した観光マップの作成や、これら取組を行うための協議会の設立に係る支援
- ・ 港湾施設の諸元や寄港地周辺の観光情報を一元的に発信するウェブサイトの充実等、みなとを利用する方に役立つ情報提供の充実
- ・ 複数の自治体が連携し、沿岸域をいわゆる観光圏として形成するための支援
- ・ 夏はマリンアクティビティ、冬は海のグルメなど、周年を通じた地域の魅力の発掘・磨き上げに係る関係者の取組支援
- ・ 屋形船、遊覧船、水上バスなどの積極的な活用による舟運の活性化のための支援
- ・ 「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、行政と民間事業者が連携した沿岸域の魅力発信や海の路を活用したモニターツアーの実施
- ・ 旅行業者等を対象としたファムトリップの実施による、船旅による旅行商品の造成支援
- ・ プレジャーボートの魅力発信など海洋観光の啓発に資するイベントの実施
- ・ 湾内クルーズやディナークルーズの活性化支援
- ・ 短期クルーズ、定点・定期型クルーズ、カジュアルクルーズが成立するビジネス環境の整備
 - － 認知度向上等の振興策
 - － 港の整備

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

- ・ 優良海浜における、先駆的事業の実施（例えば春～秋まで海水浴ができるようにするなど）
- ・ 年代別に、観光の目的を設定、商品企画や顧客アプローチの設定
- ・ 「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、行政と民間事業者が連携した沿岸域の魅力発信や海の路を活用したモニターツアーの実施（再掲）
- ・ 短期クルーズ、定点・定期型クルーズ、カジュアルクルーズが成立するビジネス環境の整備
 - － 魅力的な商品開発
- ・ 土日で観光できるような、手軽な観光ルートの提案
- ・ 海洋再生可能エネルギー実証フィールド（選定）自治体との連携、潮流発電施設、港湾や造船所等の見学実施、マリリゾートでのリゾートウェディングの企画など、これまで着目されていない観光資源を活用した新たな商品メニューの企画

② 魅力の情報発信手法

（課題）

海が心理的に身近ではないという課題がある他、海そのもの、船そのものについての魅力、海洋観光自体に関する情報発信が現状で十分ではないと考えられる。利用者目線でこれらの観点について情報発信を行うことが必要である。また、本年4月に韓国籍旅客船セウォル号沈没事故が発生し、船舶の安全に対する国民の関心が高まっていることなどから、海洋の安全性確保や危機管理体制についても積極的にPRを行う必要があると考えられる。

（取組の方向性）

- ・ 各種海洋観光に関する情報発信の強化
 - － 2015年の国際海事機関（IMO）世界海の記念日の活用など海洋観光をブームとする仕掛けづくり（2015年を我が国の海洋観光年とするなど）
 - － 海洋の体験学習やイベントに関する情報発信
 - － 湾内クルーズなど、船を活用した観光のPR
 - － 年代別等のターゲットを絞った情報発信の実施（メールや、雑誌掲載、チラシ等）
 - － メディア（映画やテレビ番組等）による、海洋の観光に関するプラスの

イメージ発信

- 一船に乗ることに限らず、浜辺や海浜地区に親子で行く機会を増やす
- 一津波対策等、海洋の安全性確保等に関する対策のPR

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体が行っている施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

- ・海の日関連イベント等の活用による海そのものの魅力発信
- ・港湾施設の諸元や寄港地周辺の観光情報を一元的に発信するウェブサイトの実等、みなとを利用する方に役立つ情報提供の実 (再掲)
- ・2015年IMO世界海の記念日を活用し、2015年を我が国の海洋観光年と設定する
- ・「みなとオアシス」など賑わいや交流促進に資する「みなと」の施設のPR強化
- ・船の安全対策や、津波対策 (ソフト対策、ハード対策) について、利用者の安心につながる情報発信
- ・「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等のネットワークを活かし、「災害時相互応援協力」等の締結による災害対応力の強化

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

- ・地域の自治体による情報発信 (お得な観光情報の発信など)
- ・映画制作活動の誘致、修学旅行の旅行先の企画など
- ・海女小屋など、家族で気軽に行ける施設のPR強化
- ・船の安全対策や、津波対策 (ソフト対策、ハード対策) について、利用者の安心につながる情報発信

③産業創出・振興

(課題)

我が国クルーズ産業の更なる拡大を図るための施策が必要であるほか、遊覧船、イベント船など、クルーズ以外の旅客船事業の振興を促進することも必要である。また、船酔いしにくい船など、旅行者がより利用しやすい船舶の技術開発が必要であると考えられる。加えて、海洋観光に関する産業振興に係る具体的な数値目標が現状で設定されていないため、検討の余地があるものと考えら

れる。

(取組の方向性)

- ・ 短期クルーズ、定点・定期型クルーズ、カジュアルクルーズ振興によるクルーズマーケットの拡大
- ・ クルーズ船の大型化に対応した機能確保
- ・ クルーズ船の発着回数増強に向けた、ソフト対策、ハード対策の推進
- ・ 内陸部の観光資源、離島との連携によるクルーズ寄港地の魅力向上
- ・ 離島等の新たなクルーズ寄港地の発掘
- ・ 屋形船、湾内クルーズ、プレジャーボートの振興
- ・ 港湾、造船所、海洋再生可能エネルギー施設など沿岸域の構築物の見学・施設などを目的とした海洋産業観光の振興（再掲）
- ・ 予備船を活用した旅客船事業の活性化
- ・ 船舶の技術開発の促進による造船業の振興
- ・ 海洋観光振興に向けた目標値の検討

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体に取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

- ・ 湾内クルーズやディナークルーズの活性化支援（再掲）
- ・ 「全国クルーズ活性化会議」と連携し、クルーズ船社、港湾管理者、地方自治体が参加する商談会・シンポジウムの開催
- ・ 短期クルーズ、定点・定期型クルーズ、カジュアルクルーズが成立するビジネス環境の整備（再掲）
 - － 認知度向上等の振興策
 - － 港の整備
- ・ 外国クルーズ船の日本への寄港を増加させるため、港湾施設等の情報が統一的に提供されるよう東アジア・東南アジア諸国との連携を強化
- ・ 日本とASEANを結ぶモデルルートの開発やASEANのクルーズ旅行会社の人材育成を支援
- ・ 大型クルーズ船に対応した旅客船ターミナル等の整備、出入国手続きの改善
- ・ 多言語表記・無料公衆無線LAN環境の整備などの旅客船ターミナルの機能強化

- ・多言語対応の強化や、地域の個性ある観光資源の磨き上げ・情報発信、寄港地における二次輸送の充実、寄港地間の連携強化
- ・個人所有のメガヨットに関し、東京湾等での受入れに係る検討
- ・災害時の人員・物資輸送ルートや被災者の緊急輸送ルート確保に資する予備船の活用方策等の検討
- ・「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、行政と民間事業者が連携した沿岸域の魅力発信や海の路を活用したモニターツアーの実施（再掲）
- ・水陸両用船、揺れにくい船、ジェットフォイル船に替わる新しい船舶の開発支援
- ・海洋観光振興に向けた数値指標の設定に関する検討

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

- ・短期クルーズ、定点・定期型クルーズ、カジュアルクルーズが成立するビジネス環境の整備（再掲）
 - －魅力的な商品開発
- ・土日で観光できるような、手軽な観光ルートの提案（再掲）
- ・「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、行政と民間事業者が連携した沿岸域の魅力発信や海の路を活用したモニターツアーの実施（再掲）
- ・イベント船（船上での芝居、音楽等とのコラボ）等、高付加価値な船旅の創出、振興
- ・海洋再生可能エネルギー実証フィールド（選定）自治体との連携、潮流発電施設、港湾や造船所等の見学実施、マリリゾートでのリゾートウェディングの企画など、これまで着目されていない観光資源を活用した新たな商品メニューの企画（再掲）

④離島振興

（課題）

離島までのアクセス改善、航路の維持・活性化が離島振興においては重要である。また離島内における交通手段の確保、離島における観光資源の発掘・磨き上げ、情報発信や離島に行くための動機付けの強化も必要である。また、離島の振興に関して、離島が持つ、独自文化の継承を行う役割や、領海及びEEZの拠点としての国土保全の観点からの重要性について、広く周知を図ることも必要であると考えられる。

(取組の方向性)

- ・ クルーズ船と離島の観光資源等との連携強化、離島航路の確保や利便性向上
- ・ 本土における他の交通モードとの連携
- ・ 離島内における港からの交通手段の確保
- ・ 離島のニーズを踏まえた高性能な船舶の開発
- ・ 離島における滞在メニューの充実や予備船の活用
- ・ それぞれの離島が持つ観光資源を旅行目的につなげるための取組推進
- ・ 離島が果たす役割を普及促進すべく、離島に行く目的、動機を明確化

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体に取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

- ・ 地域の離島振興計画等、海洋を観光の場とする取組への支援
- ・ 鉄道やバス、フェリー等の各モードが連携した公共交通ネットワークの利便性向上等を通じた、観光地を周遊しやすくする環境の整備
- ・ 離島における、島内公共交通への支援
- ・ 離島航路における省エネルギー船等の代替建造促進
- ・ 地域の個性ある観光資源の磨き上げ・情報発信
- ・ 離島における文化や、離島を管理することによる海洋権益の保全の効果をPR

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

- ・ 優れた経済性や環境負荷の低減、省人化等が可能となる離島航路船の開発
- ・ 民宿宿泊体験等の観光メニューの拡充。サイクリング大会等との連携など、地域資源の活用
- ・ 遠隔離島へのクルーズ船の企画

⑤我が国海洋の周知啓発

(課題)

全世代で海や船に親しむ経験が少なくなっていることや、若者が海洋に関する教育を十分に受けていないなど、海離れの加速が進んでいることは課題

である。海が果たしてきた役割について、他文化との共生や人の往来、物の輸送など、様々な観点から再認識を行う必要があると考えられる。また、離島の振興に関して、離島が持つ、独自文化の継承を行う役割や、領海及びEEZの拠点としての国土保全の観点からの重要性について、広く周知を図ることも必要であると考えられる。

(取組の方向性)

・ 戦略的な情報発信

- －2015年の国際海事機関（IMO）世界海の記念日の活用など海洋観光をブームとする仕掛けづくり（2015年を我が国の海洋観光年とするなど）
- －海の日関連イベント（海フェスタ等）を活用した海洋に関する周知・啓発
- －離島が持つ役割について、観光活動を通じた啓発
- －海に関する体験学習の場の創出
- －海浜学校等、教育旅行の推進
- －普段海に関わっていない人達への、海の関わり・体験の増進

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体を取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

- ・ 親子での、または学校での海洋に関する教育の充実
- ・ 日本の海洋文化に関する情報の集約と発信
- ・ 「みなとオアシス」等における住民参加による地域活性化の取組推進
- ・ 体験学習の推進に資する、海浜・海岸の環境整備
- ・ 海辺におけるボランティア体験の機会創出
- ・ 既存チャンネルの活用や新規イベント実施等による海洋の魅力周知
- ・ 海洋少年団への支援活動の推進
- ・ 海フェスタの活用
- ・ 2015年IMO世界海の記念日を活用し、2015年を我が国の海洋観光年と設定する（再掲）
- ・ 海洋観光における秘境的ツアーの商品開発に資する、サンゴ礁の保全、国土保全、EEZ管理の重要性などのPR

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

- ・ 体験型の観光商品の開発

- ・ 民泊体験による、海洋マリンアクティビティ体験の推進

⑥海洋観光に係る人材の育成

(課題)

海洋教育に関する教育人材が不足しているほか、家庭内での海洋教育の不足について改善を図る必要があると考えられる。また、海洋観光をコーディネーターし、情報発信を行える人材の育成・確保についても重要であると考えられる。

(取組の方向性)

- ・ 特に旅行業界における海洋観光のコーディネーターの育成
- ・ 海洋に関する教育機関における指導員の育成
- ・ 親子での海洋観光の取組の推進

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体に取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

- ・ 学生に、海洋が持つ多面的価値を啓発し、海事に関する知識を普及させるための指導員の育成
- ・ 小中学生などに、カヤックやヨット、釣りなどの様々なマリンアクティビティに取り組む機会を与えるための動機付け
- ・ 日本とASEANを結ぶモデルルートの開発やASEANのクルーズ旅行会社の人材育成を支援（再掲）

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

- ・ 海洋に関する観光情報を、ツアーコーディネーターに研修するなど、専門人材の育成を推進

⑦関係者の連携

(課題)

政府・地方自治体の関係者間で関連する分野横断的な取組が必要であると考えられる他、民間事業者等においても海洋の関係者だけではなく沿岸域を含む内陸の観光関係者との連携を図ることが重要であると考えられる。行政と民間事業者間の連携を促進することも重要である。また、船と鉄道、バス等の交通

モード間の連携を強化していくことが重要である。

(取組の方向性)

- ・ クルーズ、フェリー・旅客船、離島、港湾整備、農林水産業等の関連する産業分野の連携
- ・ 周辺の大規模観光地との連携など、市町村間の連携促進
- ・ 他の交通モード等との連携（鉄道、バスの乗り継ぎ、港湾内の駐車場整備等）
- ・ 官民が構成員となる協議会の活用

(具体的施策例)

1) 政府・地方自治体に取り組んでいる施策および今後政府・地方自治体による取組が望まれる施策

- ・ 船社と港湾管理者等の連携や、農林水産業と地域・離島振興策との連携
- ・ 海、陸の観光資源を併記した観光マップの作成や、これら取組を行うための協議会の設立の支援（再掲）
- ・ 港湾施設の諸元や寄港地周辺の観光情報を一元的に発信するウェブサイトの実施等、みなとを利用する方に役立つ情報提供の実施（再掲）
- ・ 鉄道やバス、フェリー等の各モードが連携した公共交通ネットワークの利便性向上等を通じた、観光地を周遊しやすくする環境の整備（再掲）
- ・ 全国クルーズ活性化会議や水のまち東京における舟運活性化に関する関係者連絡会など、各種協議会による関係者の意見交換促進
- ・ 地方におけるクルーズ利用を促進するため、既存のクルーズ振興地方協議会との連携を強化するとともに、今後、他の地域での協議会の設立を支援
- ・ 「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、官民が構成員となる協議会を活用した官民連携の取組を促進
- ・ 「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、行政と民間事業者が連携した沿岸域の魅力発信や海の路を活用したモニターツアーの実施（再掲）

2) 民間事業者等の関係者による取組が望まれる施策

- ・船社と港湾管理者等の連携や、農林水産業と地域・離島振興策との連携（再掲）
- ・全国クルーズ活性化会議や水のまち東京における舟運活性化に関する関係者連絡会など、各種協議会による関係者の意見交換促進（再掲）
- ・地方におけるクルーズ利用を促進するため、既存のクルーズ振興地方協議会との連携を強化するとともに、今後、他の地域での協議会の設立を支援（再掲）
- ・「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、官民が構成員となる協議会を活用した官民連携の取組を促進（再掲）
- ・「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」等、行政と民間事業者が連携した沿岸域の魅力発信や海の路を活用したモニターツアーの実施（再掲）

6. おわりに

国土交通省を始めとする海洋観光関係者においては、海洋観光の振興に資する施策等の検討及び実施に際して、本とりまとめで示された内容を十分に参考として、国土交通省を中心に関係者が連携して取り組み、進捗状況を継続的に把握・共有した上で、更なる展開を図るなど施策等の深化を着実に推進することを強く希望する。

(別紙1)

海洋観光の振興に関する検討会 委員名簿

- 池田 良穂 大阪府立大学大学院 工学研究科教授
- 奥 健 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社 「地球の歩き方」
編集本部 本部長
- 興津 泰則 一般社団法人日本旅行業協会 国内・訪日旅行推進部長
- 清水 克子 近畿日本ツーリスト株式会社 クルーズ・マスター
- 仁田 一郎 瀬戸内海汽船株式会社 社長
- 村上 寛 商船三井客船株式会社 取締役
- 廻 洋子 淑徳大学 経営学部観光経営学科教授
- ◎矢ヶ崎紀子 東洋大学 国際地域学部国際観光学科准教授
- 横山 幸代 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
経営企画部 総研グループマネージャー
- 渡邊 東 公益財団法人日本離島センター 専務理事

(五十音順 敬称略 ◎は座長)

海洋観光の振興に関する検討会 開催状況

- 第1回 平成26年1月27日(月)
 - ・海洋観光の現状等について
 - ・海洋観光の意義と施策体系(案)について

- 第2回 平成26年2月24日(月)
 - ・海洋観光の課題・方向性の整理について
 - ・海洋観光の振興に関するとりまとめの骨子(案)について

- 第3回 平成26年3月19日(水)
 - ・海洋観光の課題・方向性の整理について
 - ・海洋観光の振興に関する中間とりまとめ(案)について

- 第4回 平成26年6月16日(月)
 - ・海洋観光の振興に向けての最終とりまとめ(案)について